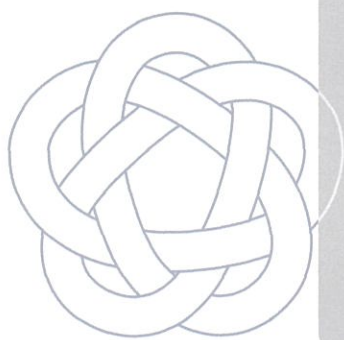
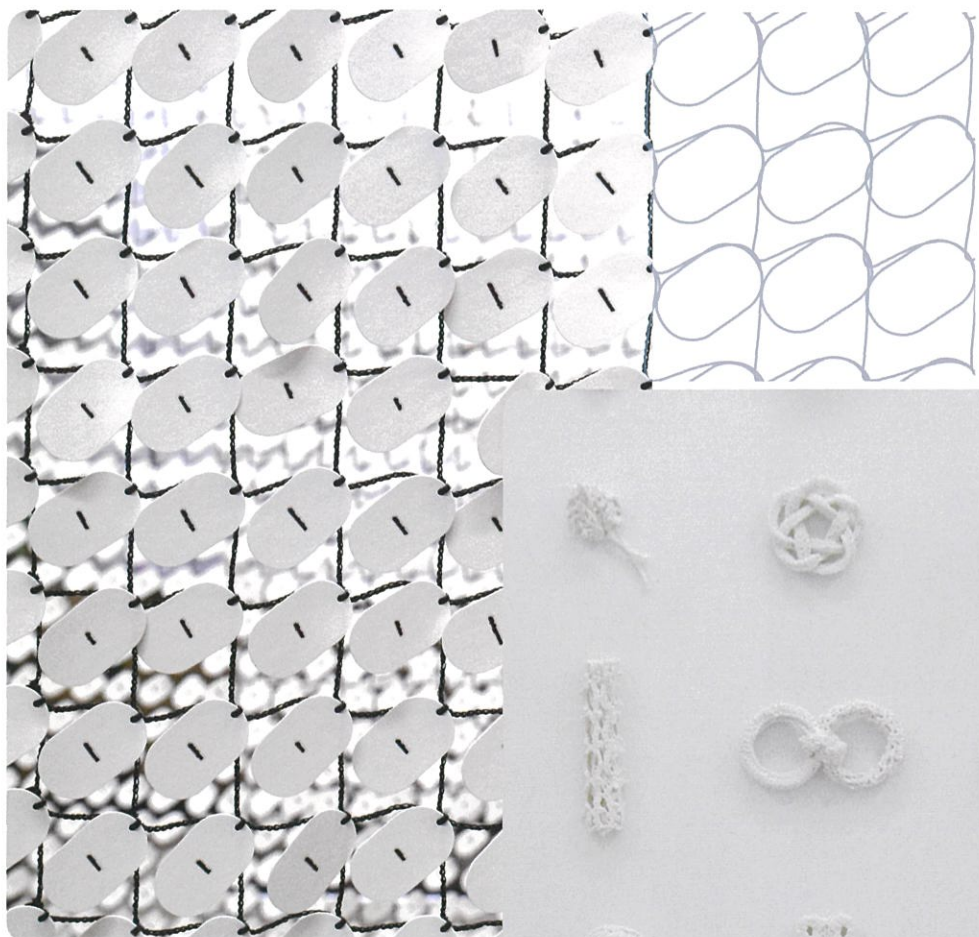


# この世界で生きる、

# 日々のかたち

— 桂樹舎の民藝品とともに —



2019 4 / 20 SAT 6 / 23 SUN



黒部市美術館

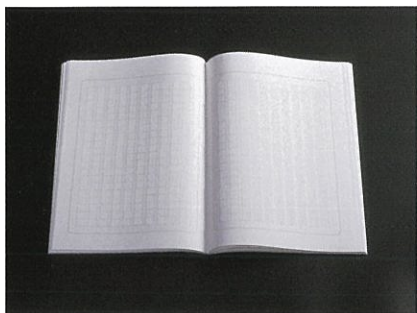
|主催| 黒部市美術館 |共催| 北日本新聞社 |協力| 桂樹舎  
|後援| 北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、みらいTV、新川コミュニティ放送

[上] セシル・アンドリュ 《いま・ことば・つなぐ》(部分) 2019年、ラベル、結束バンド、ネット [中] 宮永春香 《FEITICO》(部分) 2009年、磁土、他 [下] 野村瑞穂 《objects》 2016年、陶土、他

# 桂

樹舎所蔵の様々な国の民藝品あるいは生活上芸品は、現在の私たちにしつつその文化や使用目的が分からないくても形の面白さや美しさをきっかけとした鑑賞の楽しみを与えてくれます。つまり用途や意味を超え、多角的な視点からの親しみをもたらしてくれます。鑑賞者が作品に物語や価値を見出すという点においては現代の作品にも共通するでしょう。本展では3人の作家の作品と民藝品等を併せて紹介し、かつての民藝運動が審美性のみならず同時代の社会や暮らしを重視したように、生活の背景にある思想や感性の一端に想いを馳せてみるものです。私たちの生き方の根本に触れるきっかけとなれば幸いです。

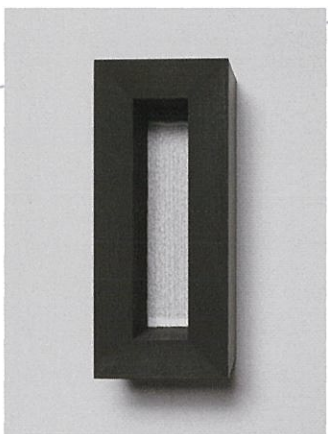
●桂樹舎和紙文庫・民族工芸館  
http://keijusha.com/  
八尾和紙やその加工品を生産する桂樹舎が運営する施設。  
廃校になった小学校を移築し1985年に開館。初代館長の吉田桂介氏が蒐集した紙資料や生活工芸品、世界各国の民藝品を紹介。約500点収蔵。現在、桂樹舎和紙文庫のみ一般公開中、日本や韓国を中心とした紙工品等を見ることができる。



1.



7.



○セシル・アンドリュ  
Cécile Andrieu  
(1956年、フランス生まれ)

造形美術修士論文のテーマとなった荒川修作の作品により、日本文化に開眼する。1982年、日本政府留学生として東京大学で言語及び美学を学び(1986年、ソルボンヌ・パリ第一大学人間科学芸術学博士号修得)、人と言葉との関係に集点をあてた新たな芸術制作(オブジェ、インスタレーション)に打ち込む。主に日本、ベルギー、チェコ共和国、フランス、スイス等で展示され国際的に注目を浴びている。

○野村瑞穂  
Mizuho Nomura  
(1966年、富山県生まれ)

1992年、京都市立芸術大学大学院陶磁器専攻修了後、倉敷での陶芸制作を経て、現在上市町に窯を築き活動する。大学時代から一貫して人や動物の身体的な形から発想を得た柔らかくそうなオブジェを制作してきた。近年は身体に起因した用途のあるものの「形」に着目しその要素を抽出した作品を制作。下山芸術の森発電所美術館での展示や砺波市美術館での個展等精力的な活動を続けている。

○宮永春香  
Haruka Miyanaga  
(1980年、石川県生まれ)

2008年、金沢美術工芸大学博士課程工芸領域陶磁分野修了、芸術博士取得。金沢美術工芸大学工芸科で講師を務め、金沢を拠点に作家活動を行う。陶芸の制作過程に「作る」ことから「見る」ことへの切斷を意識し、主に土と紙から生まれる造形を追及する。近年は「編む」ことを軸とした様々な表現の可能性を考察する。愛知県美術館やAcorn Gallery (USA)での個展をはじめ様々な展覧会に出品し活躍の場を広げている。



3.



9.



4.



8.



10.



6.



11.



5.

1.セシル・アンドリュ(ENCYCLOPEDIA)1994年、ノート、修正液、撮影：山本紉 2.セシル・アンドリュ(OUVERTURE No.3)2010年、仏語辞書、木、他 3-4.野村瑞穂(objects)2016年、陶土、他、撮影：京角真裕 5-6.宮永春香(FEITICO -Remains-)シリーズ 2011年、磁土、陶土、他 7.聖歌譜(グレゴリオ聖典) 8.韓国の風呂敷(ホジャキ) 9.オランダの本靴 10.韓国の紙織蓋物 11.グアテマラのコーヒー袋 7-11.所蔵：桂樹舎、撮影：柳原良平

## オープニングセレモニー&アーティストトーク

2019年4月20日(土) 11:00~11:45頃

会場 | 黒部市美術館

\*展覧会観覧券が必要です。 \*どなたでもご参加いただけます。

## 学芸員によるギャラリートーク

2019年5月12日(日)、6月9日(日) 随時

会場 | 黒部市美術館

\*展覧会観覧券が必要です。 \*どなたでもご参加いただけます。

## 休館日 |

月曜日(但し4月29日、5月6日開館)、5月7日・8日

## 開館時間 |

午前9時30分~午後4時30分(入館は午後4時まで)

## 観覧料 |

一般500円(400円)、高校・大学生400円(300円)

( )内は20名様以上の団体料金

\*中学生以下無料 \*障害者等手帳をお持ちの方と付添1名無料

## 電車でお越しの方 |

あいの風とやま鉄道「黒部駅」から徒歩約25分、または

タクシーで約7分

新幹線「黒部宇奈月温泉駅」からタクシーで約20分

## 黒部市美術館

TEL/FAX 0765-52-5011

〒938-0041 黒部市堀切1035

